

# GD-25GJ-K, 25GJ-L

**GD-25GJ-K** 一般配管用  
**GD-25GJ-L** 管端コア内蔵

GD-25GJ-K型減圧弁は、戸別給水用減圧弁として、低騒音給水を実現した製品です。給水側圧力の変動に対して、極めて安定した二次側圧力を保持できるとともにストレーナを内蔵し、かつ小型軽量に設計されていますので配管取扱いが容易です。

また、GD-25GJ-L型減圧弁は、管端防食コア組込形でライニング鋼管に対応できます。



JWWA

1  
減圧弁

## ■ 管端防食コアの特長

- 1.ライニング鋼管の管端面、ねじ部などの腐食部を管端コアにより液体から遮断。錆の侵入をシャットアウトします。
- 2.青銅製ニップルや防食ソケット等の配管継手が不要。配管工事の簡素化やコストダウンを実現しました。
- 3.GD-25GJ-Lはコア内蔵型のためコアの入れ忘れなどのトラブルがありません。
- 4.高い気密性が保持できます。

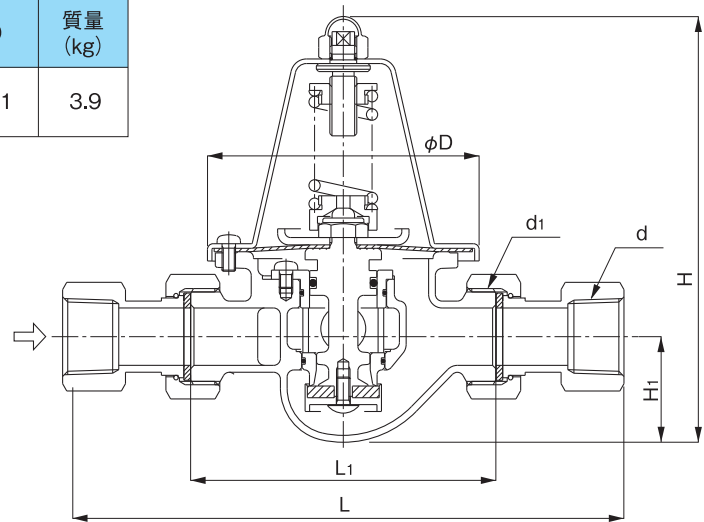
## ■ 仕様

型 式		GD-25GJ-K	GD-25GJ-L
呼 び 径		25A	
適 用 流 体		水道水	
一 次 側 圧 力		1.0MPa以下	
二 次 側 圧 力		(A) 0.05~0.10MPa〔標準設定0.09MPa〕	
		(B) 0.10~0.22MPa〔標準設定0.2 MPa〕	
		(C) 0.20~0.35MPa〔標準設定0.25MPa〕	
弁前後の最小差圧		0.02MPa	
最大減圧比		10:1	
最小調整可能流量		0.5L/min	
流 体 温 度		5~90℃	5~40℃
定 格 流 量		85L/min(差圧0.10MPa以上の場合は100L/min)	
材 質	弁 箱	青銅(NPb処理)	
	弁 座	青銅(NPb処理)	
	弁 棒	黄銅	
	弁 体	合成ゴム	
	ダイヤフラム	合成ゴム	
接 続		JIS Rc1 (ユニオン継手)	
圧 力 計 継 手		JIS Rc1/8	
騒 音		公共住宅事業者等連絡協議会 編集「公共住宅建設工事共通仕様書」に準拠	
二 次 側 耐 圧		二次側最高使用圧力の1.2倍	

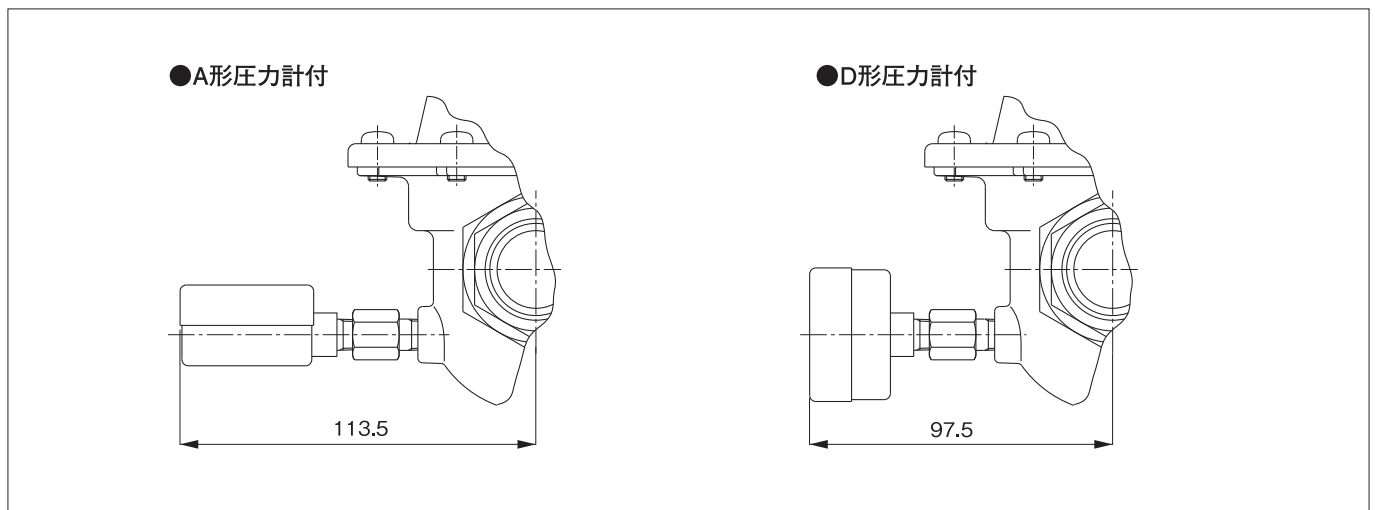
- ストレーナ網目は40メッシュです。
- 圧力計付(A形・D形)は、オプションです。(0.5MPa用)
- 圧力計(JIS R1/8)は現地で接続してください。
- 圧力計の精度は±3%F.S.です。
- 保温材は難燃材を使用しています。

## ■ 寸法及び質量

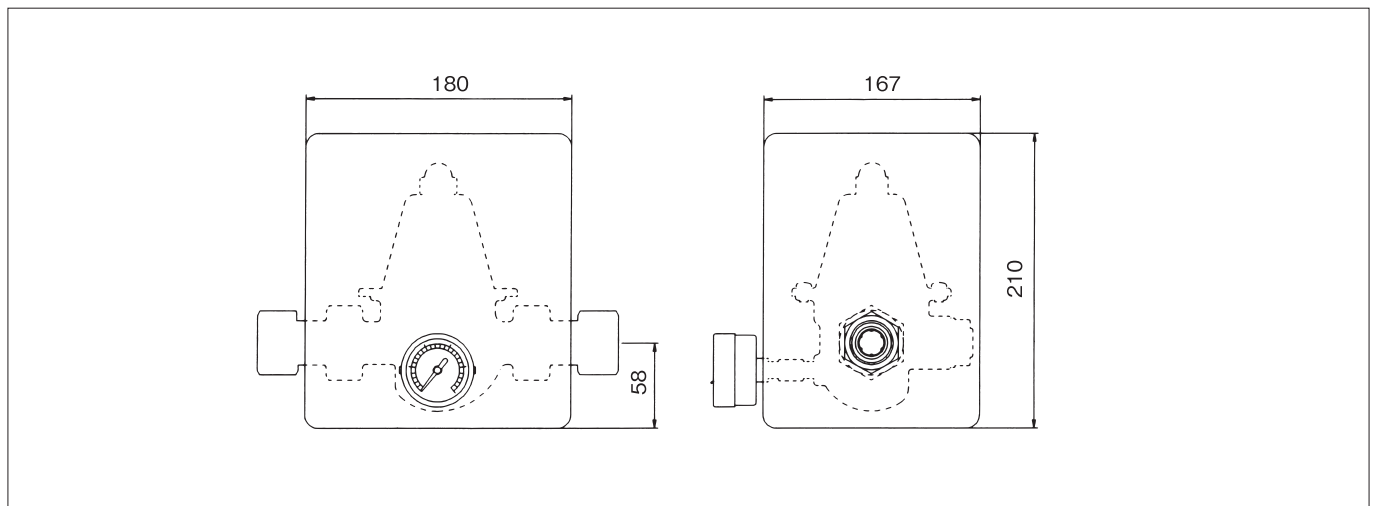
(mm)							
d	d <sub>1</sub>	L	L <sub>1</sub>	H	H <sub>1</sub>	D	質量 (kg)
Rc1	G1 $\frac{1}{4}$	250	136	186	46	121	3.9



## ■ オプション品装着寸法

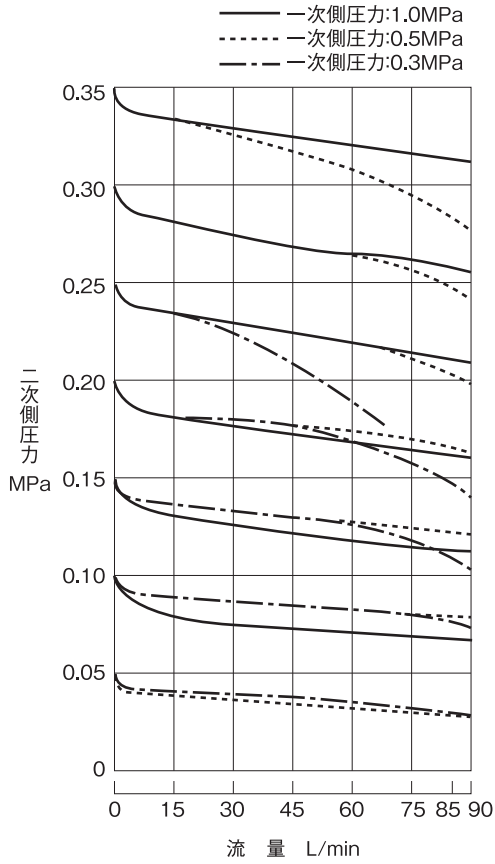


## ■ 保温材寸法

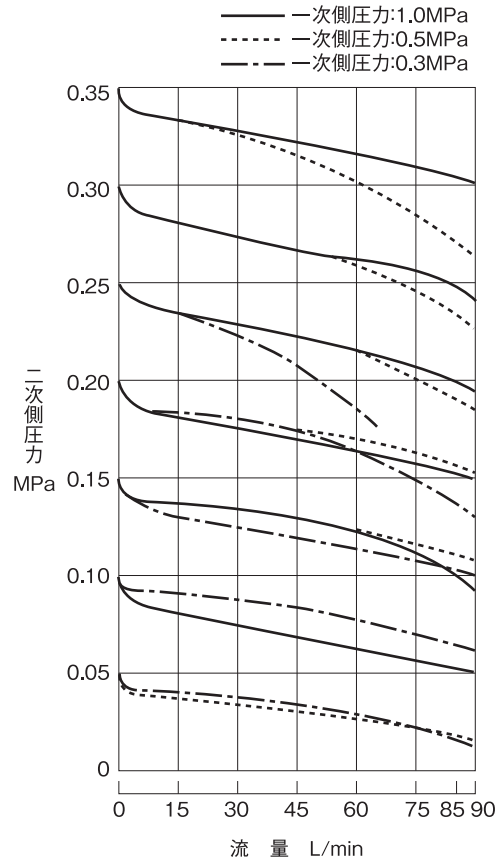


流量特性線図

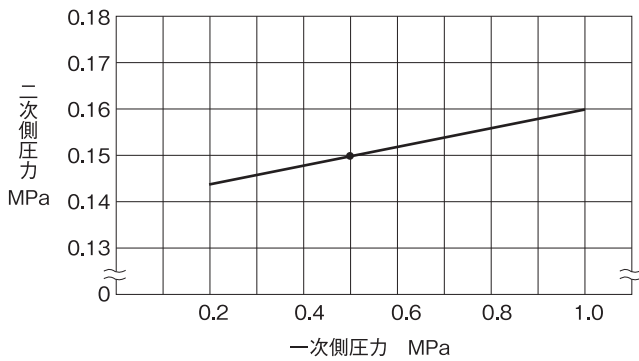
●GD-25GJ、GJ-K、GJ-L



●GD-25JC

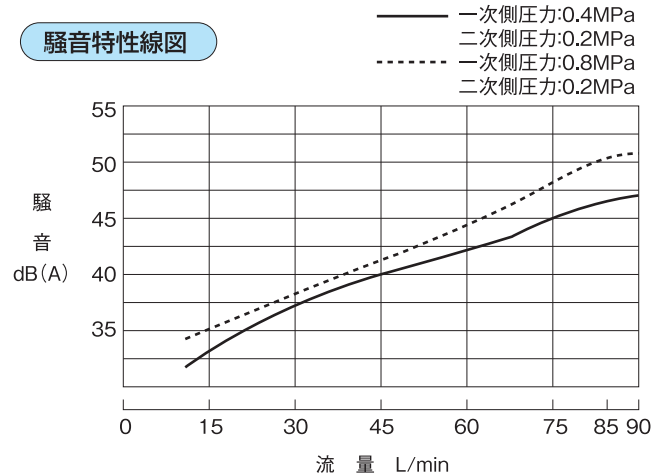


圧力特性線図



一次側圧力0.5MPaのときに二次側圧力を0.15MPaに設定し、一次側を0.2~1.0MPaに変化させた時の二次側圧力の変動を示す。

騒音特性線図



●供試弁からマイクロホンまでの距離15cm ●暗騒音30dB(A)

## ■ 取付けに際しての注意事項

1. 配管の取付け方向(水平・垂直)は任意です。
2. 配管内のごみ・砂等の異物をよく除去してから取付けてください。
3. 設定圧力は、標準設定圧力に調整済ですので必要のない限り調節ねじに触れないでください。設定圧力を変更する場合は、ラベルに表示してある範囲内で調整してください。
4. ストレーナにごみ・砂等の異物がたまると、水の出が悪くなりますので定期的に掃除してください。特に設置当初は、配管工事中に混入した異物がたまりやすいので、給水開始後早めに1度点検してください。なお、ストレーナ点検の際は135mm以上のスペースが必要です。
5. 塩化ビニル管類の配管施工時の注意  
塩化ビニル管類用の接着剤が弁内に流入しますと、合成ゴムが侵されることがありますので、施工の際には十分注意してください。
6. 発泡スチロールの梱包箱は保温材として使用してください。
7. 梱包箱のベルトは取扱説明書ですので、配管後は保温材のベルトとして使用してください。
8. 管端防食コアには、「水道用硬質塩化ビニルライニング鋼管用」と「水道用ポリエチレン粉体ライニング鋼管用」の二種類があり、鋼管の内径がそれぞれ違いますので、管種に合わせてご使用ください。
9. 管端防食コアは、高温により熱変形する恐れがあります。火を近づけたり、溶接作業などで高温にさらされないようにしてください。
10. 配管施工要領(管端防食コア)

### ① 管のチェック

コアにあった管種であることを確認してください。  
必ず規格にあった管を使用してください。規格を外れるような管を使用されますと、気密性が不完全となったり、コアが変形する等コアの防食機能を損なう原因となります。

### ② 管の切断

管の切断には必ず管軸に直角に切断してください。  
管の切断には自動金のご盤・自動丸のご盤等を使用してください。  
注) パイプカッター・ガス切断・アーク切断・高速砥石切断は行わないでください。管に付着した油は必ず除去してください。

### ③ 管の面取り

スクレーパーなどの面取り工具を用いて管内面のカエリを軽く面取りしてください。

### ④ 管のねじ切り

管のねじはJIS規格範囲内のねじを切ってください。規格を外れるような細いねじはコアを損傷する原因となりますので、必ずねじゲージにてチェックしてください。

### ⑤ シール剤の塗布

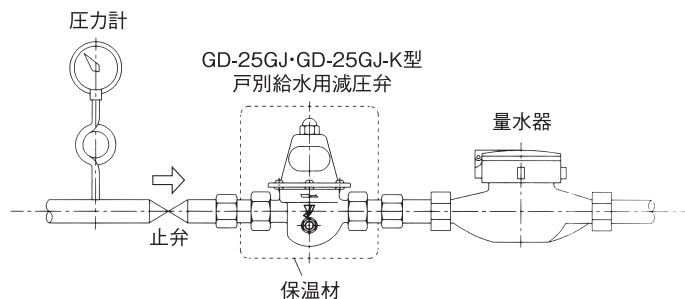
防食シール剤(国土交通省機械設備工事共通仕様書適合品)を管のおねじ部及び管端部にむらなく塗布してください。

### ⑥ 管の接合

管の接合は、下記表の標準ねじ込み山数及び長さを参考にしてください。配管の取付け方向(水平・垂直)は任意です。  
配管内のごみ・砂等の異物をよく除去してから取付けてください。

呼び径	標準ねじ込み山数(山)	標準ねじ込み長さ(mm)	標準締め付けトルク(N-m)
15A	5.5	10	39.2
20A	6	11	58.8
25A	5.5	13	98.0
32A	6.5	15	117.6
40A	6.5	15	147.0
50A	8	18.5	196.0

## 〔配管図例〕



## ■ 圧力調整方法

1. 圧力計を圧力計継手にねじ込みます。(図1)
2. キャップを外し、圧力計を見ながら調節ねじを回転させ希望圧力に調整します。(図2)
  - 右(時計方向)へ回すと二次側圧力が下がります。
  - 左(反時計方向)へ回すと二次側圧力が上がります。
3. 調整後はキャップを取付けます。
4. 圧力計を外します。

